



◇ 今回は、関高卒業生の山岡健さん（信州大学地質科学科）よりの報告です。

## 大学での研究生活 ～岩石を追い、山々をめぐる日々～

私は大学で地学を勉強しています。地震や火山、岩石や惑星に関係する分野が専門分野になります。子どものころから石や鉱物に興味があって、それを追いかけていたら大学 4 年生になってしまいました。高校生の時にこの大学を決めた要因は、(第一志望大学に落ちてしまったこと) ホームページで見たカリキュラムの内容が自分に合っていると判断したからです。大きな声では言えませんが、数学が苦手だったのであまり数を扱わないというのも安心材料でした。

大学の学部・学科名をメインとし、土地や実家からの距離で進学先を決めがちですが、インターネット等でカリキュラムや先生についても目を通しておくのが、“これじゃなかった”と言わない大学選びに繋がると思います。

さて肝心の大学生活に関してお話ししたいと思います。日頃は友人と遊んでばかりですが、山を歩いたり、ネパールに実習に行ったり、オーストラリアやイギリスで一人旅をしたりして楽しく過ごしています。3 年生までは座学や実習が基本になりますが、4 年生では卒業論文というものを書きます。卒論では実際に勉強したことを研究という形で発展させていきます。

研究と一口に言っても内容は一人一人異なり、私の場合は 50 日間も山を歩いて中央構造線と変成岩という岩石を調査する内容の研究テーマとなってしまうので、日々悩みながら取り組んでいます。山の石ころを通して、日本列島の地質形成史に迫るのが目的になっている研究テーマなので、スケールが大きくてワクワクします。



ネパールのヒマラヤ地域での実習。壮観です。

現在、授業はないので朝から寝るまで時間の束縛はあまりありません。したがって、深夜まで研究室でパソコンに向き合うこともしばしばありますが、楽しいことを突き詰められるというにはある意味快感で、テストのような辛さは感じたことはありません。

研究自体も楽しいですが、学会や他の大学と連携して世界が広がっていく感覚も非常に面白く、貴重な体験だと感じています。大学卒業後就職する人は、文系・理系を問わず 3 年生の終わりごろから 4 年生の前半にかけて就職活動をして進路を決定します。4 年生の後期から卒論に真剣に取り組むため、忙しい方が多いかもしれません。卒論の研究は、うまくいけば一般に公開されるような論文として発表することができるので、私はそれをめざしています。

大学は一気にコミュニティが広がり、さまざまなチャンスがいたるところに転がっていますので、ぜひ多くの友人を作って有意義な時間をすごしていただきたいです。研究とは直接関係はありませんが、私の場合、趣味のカラオケ好きが高じて、大学の学祭から全国大会に出場することができました。

## 東京大学大学院への進学

私は将来、研究者になるという目標を持っています。一般的に理系では大学院の修士課程まで進学する方が多くいますが、研究者になるためにはさらに博士課程まで進学する必要があります。博士課程に進学する人はごく少数です。私の場合、現在は信州大学に在学して研究をしていますが、東京大学の大学院入試（院試）に合格できたので、来年度からは東京で岩石に関する研究を続けます。大学院の院試と聞くとイメージが湧かないかもしれないので、私の知りうる範囲でご紹介します。



高校時代。バレー部のスパイカーでした。

院試には、基本的に内部進学と外部進学がありますが、毎日勉強漬けでないと合格できないような大学院は国内にはほとんど存在しません。重要視されるのは専門分野と英語のみです。意外かもしれませんが、専門科目より英語が得意なの方が有利な場合が多いです。論文や研究の成果発表を英語でできることができると非常に大きなアドバンテージになるからです。大学では英語の習得度を示す指標として TOEIC や TOEFL などのテストを利用することが多いです。システムに関しては、大学に入ってから知るので十分かと思われます。

大学名では決めず、自分の専門分野（卒論テーマ）に関する先生との相性を重視する人の方が多いということは大学入試と大きく違うところだと思います。また、進学に際して大きな障壁となりうる学費に関しては、大学院の方が奨学金を得やすく、また奨学金の免除の可能性が大きいのでデメリットは多少軽減されるかと思います。

自分の夢をもっている方、大事にしてほしいと思います。高校生の時には想像もつかなかったような変化を大学で経験できたので、受験勉強をぜひ頑張ってください。



調査地で山を登り切ったときは気持ちいいです。